

小中一貫教育校だより

大泉桜学園の校歌が完成！

新しい校歌は、児童・生徒の成長のイメージが表現され、1年生から9年生までが歌いやすいものに仕上がりました。

校歌

作詩 村田 さち子
作曲 西澤 健治

一 たからかに みんなの声か
桜並木を かけのぼり
はるかな空へ まいあがる
ここから あの宇宙^{そら} さわれるよ
輝く星も つかめるよ
みんな元気な さくらの子
ああ 大泉桜学園

二 きららかに 花びらあふれ
風にさそわれ 教室へ
いのちの息吹 ふりまいて
九年^{くねん}の 月日を わけあえば
みんなの絆 むすべるよ
こころ優しい 仲間たち
ああ 大泉桜学園

◆「練馬区立小中一貫教育校実施計画」について

平成23年1月18日(火)に開催した第18回推進委員会において、練馬区立小中一貫教育校実施計画について全会一致で承認されました。元木委員長から藺部教育長に同実施計画が手渡されたあと、教育長から挨拶がありました。また、推進委員会の最終回にあたり、各委員から感想をいただきました。

実施計画は、新しい学校づくり担当課にて配布しています。また、ホームページでもご覧になれます。

練馬区立小中一貫教育校推進委員会委員

(敬称略)

氏名	役職等	氏名	役職等
本木 薫	大泉学園桜小学校保護者連絡会	坂口 節子	大泉学園桜中学校学校評議員 練馬区青少年育成大泉北地区委員会会長
中島 広美	大泉学園桜小学校保護者連絡会	小川 善昭	大泉学園町東町会会長
諏崎 啓美	大泉学園桜中学校保護者と教職員の会	時政千恵子	大泉学園緑小学校学校評議員
伊藤 照代	大泉学園桜中学校保護者と教職員の会	坂田美由紀	大泉学園桜小学校校長
高野 美樹 下村 恭子	大泉学園緑小学校父母会	木下川 肇	大泉学園桜中学校校長
甲斐 智重 *大和田隆彦	小学校 PTA 連合協議会	高島 邦夫	大泉学園緑小学校校長
和田 尚武 *渡邊 裕	中学校 PTA 連合協議会	○重田 三夫 ○伊藤 隆	小学校長会
中田 清	大泉学園桜小学校学校評議員 大泉学園桜小学校応援団団長	◎元木 靖則	中学校長会
相馬 功紀	大泉学園桜小学校学校評議員	河口 浩 室地 隆彦	学校教育部長



委員の皆様、ありがとうございました。

◎委員長、○副委員長（上段：平成21年度、下段：平成22年度）

*印の方々は、平成22年5月から交代しています。

◆「小中一貫・連携教育シンポジウム」について

平成23年2月1日(火)、保護者・地域の方々、区立小中学校の先生方を対象に「小中一貫・連携教育シンポジウム」が開催されました。開会にあたり、菌部教育長から「練馬区立小中学校の5万名の子供たちが、小学校と中学校それぞれ連続して学べる環境をつくれるようこれからも努力していきたい。シンポジウムの先生方のご意見を伺いながら、前進していきたい。」との挨拶がありました。

なお、参加者からは、大泉桜学園の特色・目指すところが明確であった、具体的な話があり分かりやすかった、もう少し聞きたかったなどの意見・感想が寄せられました。

「第1部 小中一貫教育校実施計画の報告」

推進委員会で検討した以下の項目について、パワーポイントを活用しながら、元木靖則委員長、木下川肇校長、坂田美由紀校長、五十嵐浩子統括指導主事から、説明がありました。

- 小中一貫教育校実施計画の作成について
- 小中一貫教育校の教育
- 統一校名、統一校章、統一校歌
- 大泉桜学園の教育
- 就学の特例
- 施設整備
- 小中一貫教育資料の概要

「第2部 小中一貫・連携教育シンポジウム」

演題：「小中一貫・連携教育の推進に向けて～連続性・系統性のある義務教育9年間の教育活動を実現するために～」

出演いただいた廣嶋憲一郎先生、小林福太郎先生、村松賢一先生、米津光治先生から示唆に富むご発言をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

I 小中一貫・連携教育の意義や必要性

- いろいろな教育施策の中で、小中一貫・連携教育に最も期待している。
- 一貫校をつくることが目的ではない。より良い子供の成長・発展のために一貫教育という方法を使うのである。
- 課題解決を図るためには、小中学校の先生が子供の実態を把握した上で学習活動を展開して、中・長期的な計画・実践・評価にかかわっていく必要がある。
- 子供の実態からカリキュラムを見直すと、いろいろな重なりやギャップがあるので、一貫して教育する必要がある。

II 小中一貫・連携教育における取組

- 小中学校の教員がチームティーチング（複数教員が協力して行う指導）の中で、中学校の先生の専門性を発揮していただくと、もっと授業の可能性が広がる。
- 下級生を楽しませる「お話し会」の取組がある。パネルシアターや人形劇など様々な表現方法を通して、下級生は目を輝かせ、上級生は表現する楽しさを味わい充実感を覚える。
- リトルティーチャー（中学生による小学生の学習支援等）により、中学生が小学生の前に出ると優しく、小学生も中学生に教わるとあこがれるようになる。
- 年齢差を生かした宿泊行事を行うことにより、上級生の自己有用感が高まり、非常に穏やかになる。

III 小中一貫・連携教育への期待

- 9年間という長いスパンで、小中学校の先生が「一緒に力を合わせて自分たちの子供を育てていくのだ」という思いで取り組んでほしい。
- 教育は長い時間をかけて成果が出てくるものなので、評価の部分では、少し時間をかけて丁寧に練馬の教育の成果を見守ってほしい。
- 教育の視点で子供たちのために新しい学校をつくっていくのだという気概をもって進めばとても良いものができる。
- 1～9年生の発達段階にふさわしい指導法が積み重ねられ、定着していくようになると、小中一貫・連携教育の成果が上がるのではないかと。



シンポジウムの様子

練馬区立小中一貫教育校推進委員会事務局

練馬区教育委員会 学校教育部 新しい学校づくり担当課・教育指導課

TEL：03-5984-1065 FAX：03-3993-1196

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/gakko/atarashi/index.html>

※推進委員会の資料・要点記録は、大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校、大泉学園緑小学校および新しい学校づくり担当課（区役所本庁舎12階）で閲覧できます。